

第3章 まちの移り変わり

【ま^{ひと}ちの^{むかし}人^{はなし}に、昔^きの話を聞いてみよう】



1950（昭和25）年ごろ 雪印の牛乳加工工場

二次元コードはスキャン

ワークシート

ここを
クリック



上の^{うえ}写真^{しゃしん}は、昔^{むかし}、本町^{ほんちょう}にあった牛乳加工工場^{ぎゅうにゅうか こう こうじょう}です。今は、この^{いま}工場^{こうじょう}はなくなりました。

お父^{とう}さんやお母^{かあ}さん、おじいさんやおばあさん、近所^{きんじょ}の人^{ひと}などの身近^{みぢか}な人^{ひと}に「昔^{むかし}の木古内^{きこない}」の話^{はなし}について聞いてみましょう。



お母^{かあ}さんに聞いてみます。新幹線^{しんかんせん}が来る^く前の^{まえ}駅前^{えきまえ}のことを、知^しっていると思^{おも}います。



私^{わたし}、おじいさんに「江差町^{えさしちょう}や松前町^{まつまえちょう}まで列車^{れっしや}に乗^のって行くことができた」という話を聞いたことがあります。もう少し^{すこ}くわしく聞いてみようかな。

第3章 まちの移り変わり

【^か変わ^{わたし}ってきた私たちのまち】



1930年の木古内の絵地図



現在の木古内川付近の様子

ここでは、「木古内の土地の昔と今の様子」をくらべてみましょう。この二つは、木古内川付近の、1930（昭和5）年ごろの絵地図と、現在の写真です。



まちの様子の移り変わりについて疑問に思ったことを話し合い、学習問題を作りましょう。



左側の昔の地図は、絵のようです。場所ごとに、お店の名前などが書かれていて、そのころ、そこにどんな名字の人が住んでいたかがわかります。



木古内川の形が、今と違って、川が海に出る前に大きく曲がっています。まるで小さい港みたいな部分があります。

昔、木古内川には、海に流れこむ手前に小舟を泊める場所がありました。右にあるのは、そのころの写真です。

実は、この場所は、大雨のときに、水があふれやすく、水害の原因にもなっていたのです。



大正初期 木古内川河口、小廻船

第3章 まちの移り変わり

【土地の使われ方の移り変わり】



1957年の本町の大火災



昔の木古内川河口付近の地図



木古内町国民健康保険病院

本町を流れていた木古内川は、1957（昭和32）年の大火災をきっかけに、1959（昭和34）年から2年をかけてうめ立てられました。うめ立て地には、木古内町国民健康保険病院などの公共施設も建てられました。



今の病院があるあたりには、木古内川が流れていたのですね。土地の使い方に大きな変化がありました。



現在の木古内川付近の様子



川の流れ方が変わると、まちの形も変わるのではないのでしょうか。今度、病院に行ったとき、昔の地図とくらべて、周りの土地の様子を見てみようかな。



大火災が、川のうめ立てをするきっかけの一つであったということにも、まちの歴史を感じます。



そうですね。まちは、いろいろな出来事をきっかけに、姿を変えてきたのですね。大火災の時の写真も残っています。

第3章 まちの移り変わり

【人口の移り変わりのグラフ】



木古内町の人口とは、木古内町に住んでいる人の数のことです。

上のグラフは100年ぐらいの間に、木古内町の人口がどう変わったかを1年ごとに示しています。グラフからわかる人口の変化や、変化した理由について話し合ってみよう。



下にある数字は西暦年号で、これを見ると折れ線上の点は何年の人口を表しているのかがわかります。



折れ線が上にあるほど人口が多いのです。グラフの左側に人の数を示す目盛があります。



まちの人口は、どのように変わってきたのでしょうか。

言葉

人口



まちや北海道、国など、それぞれの地域に住んでいる人の人数のことです。

第3章 まちの移り変わり

【昔の人々の様子を知ろう】

人口が増えていたころの木古内の行事の写真です。



1950年ごろ ばん馬競走



1962年 町制20周年記念植樹



人口は一度増え、その後、だんだん、減っています。人口が一番多かったのは何年なのかな。



インターネット検索で「木古内町 人口」で探すと「町の人口と世帯の推移」というページに木古内町が作った表が見つかります。一番人口が多かったころは、1万3千人以上の人がいたようです。



多い時には、今の4倍ぐらいの人が住んでいたのですね。



たくさんの方がいたのは、今の木古内と何か違いがあったのでしょうか。

学びのポイント

それぞれの時期の人口をくらべてみよう。

人口が増えた理由について話し合ってみよう。

言葉



時期の区分

時期の区分には、明治・大正・昭和・平成・令和のように元号で表す方法と、「江戸時代」のように時代名で表す方法があります。

第3章 まちの移り変わり

【人口が多かったときの様子を調べてみよう】

なぜ、木古内町では人口が減ってきたのか、理由を調べるために、おじいさんとおばあさんの時代や、お父さんとお母さんの時代と、今の暮らしの違いをくらべてみよう。

その人たちが子どものころは、家族の人数は何人だったか、どこで働いていたか、何歳まで学校に通ったかなど、生活の様子を聞いて、今の生活とくらべてみましょう。



まちの人が少なくなると、学校の数も変わってくるのでしょうか？

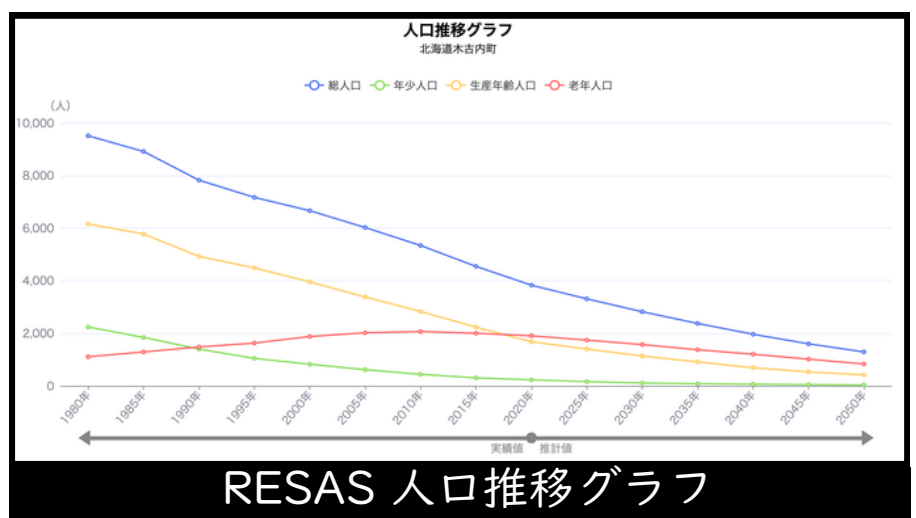


よその地域と同様に、木古内では、小学校や中学校の数が昔より少なくなりました。この副読本の後ろにある年表（「木古内のあゆみ」）にも学校をつくったことや学校を減らしたことが書かれています。

まちの人たちの年齢ごとの人口をもとにして、将来のまちの人口を予想してくれるインターネットのサービスもあります。

リーサス
RESAS
二次元コードはスキャン

ここを
クリック



出典：リーサス RESAS（人口構成分析）

第3章 まちの移り変わり

さんこう
参考
資料

木古内の昔の出来事が写真に残されています。時代とともに、まちの中でさまざまな行事が行われていたことがわかります。



1921年 願応寺の祭の
稚児行列（本町）



1937年 道路愛護デー
清掃風景（本町）



1937年 道路愛護デー
清掃風景（本町）



1942（昭和17）年 町制施工記念仮装大会（下町 町内会）



1965(昭和40)年ごろ 釜谷塩竈神社夏祭り



1982(昭和57)年 佐女川神社例大祭

第3章 まちの移り変わり

【道路や鉄道の移り変わり】



1930年 国鉄木古内駅



木古内駅と 旧江差線と旧松前線

木古内町には、北海道新幹線や函館につながる道南いさりび鉄道の駅があることは調べました。実は昔の木古内駅は、松前や江差につながる鉄道の駅でもあったのです。

100年近く前の1930（昭和5）年に函館から木古内につながる鉄道が開通しました。そのころは、一般の人には自動車は高価で買えなかったので、多くの人が移動に鉄道を使いました。その後、1936（昭和11）年に江差線が、1953（昭和28）年に松前線が開通しました。



松前や江差まで、鉄道が通っていたのですね。今はもうないのですか？



今はもう鉄道はありません。自動車を持つ人が増えるにつれて、鉄道を使う人は減りました。松前線は1988（昭和63）年に、江差線は2014（平成26）年に廃止されました。



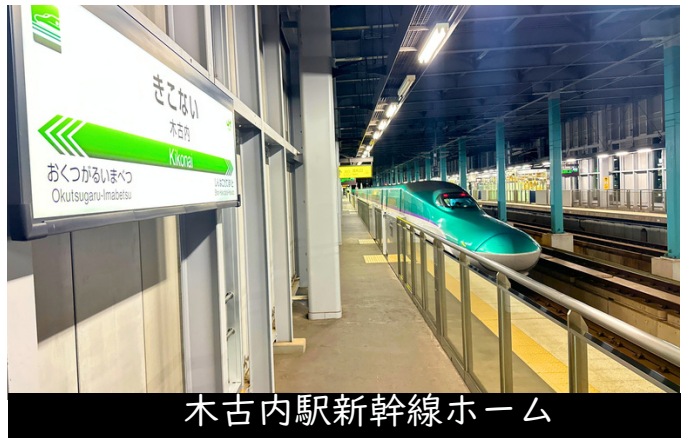
鶴岡にあるトロッコ鉄道の線路は、昔の江差線の線路をそのままの場所で使っているそうです。

第3章 まちの移り変わり

【北海道新幹線の開業】



木古内駅開業式典



木古内駅新幹線ホーム

鉄道にはその後、大きな変化がありました。それは、青函トンネルができ、1988（昭和63）年に海峡線が開業、2016（平成28）年に北海道新幹線が開業したことです。このとき、木古内には新幹線の駅が置かれました。



木古内駅から新幹線に乗ると、直接、仙台駅や東京駅まで行くことができますし、新函館北斗駅のある北斗市にも行けます。



まちの人は、より簡単に遠い場所に行けるようになりました。また、まちの外から来る人も増えたかもしれません。



まちの交通は、どのように変わってきたのでしょうか。

言葉



鉄道

鉄道は、一度に多くの人を運ぶことができ、環境にやさしい交通機関です。

学びのポイント

昔と今で、鉄道やバスの通っている所は、どのように変わってきたか地図でくらべてみよう。

大きな道路や鉄道ができて、まちはどのように変わったのか話し合ってみよう。